

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26 | レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。 |
| | | | | | | | | | | | BSE | ProMed20050204-0030(EU press Releases 2 Feb 2005) | フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日) | 厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞在期間中に感染した可能性があると見ている。 |
| | | | | | | | | | | | BSE | ABC newsletter 2005年2月11日 | イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイピーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性があると発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Yahoo health 2005年3月3日 | 2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005 ;365(9461):781-3 | BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Genetal Virology 2005;86:1571-9 | TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Transfusion.2005;45(4):504-13 | 非常に高感度なDEL FIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日 | 2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日) | ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8 | 遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005;365(9470):1596 | 2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ABC newsletter 2005年7月8日 | カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|-----------|--|---|
| | | | | | | | | | | | リンパ性脈絡髄膜炎 | AABB Weekly Report 2005年5月27日 | 2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日) | 2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Transfusion.2005;45:1084-8 | SENウイルスはエンベロープを持たない本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。 |
| | | | | | | | | | | | マールブルグ病 | ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation) | 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 |
| | | | | | | | | | | | マールブルグ病 | CDC 2005年4月20日 | 2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion.2005;45(6):1037-8 | ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な献血禁止が必要である。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of General Virology 2005; 86: 595-9 | 本邦の献血者(2002年10月)において、遺伝子がHのHBV事例(外国滞在歴なし)が初めて、発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。 |

| 受理日 | 発見 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|---------|---|---|
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日 | 2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6 | ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of Medical Virology 2005;77:39-46 | 日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Transfusion.2005;45:807-13 | 豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第53回日本輸血学会総会 | 2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J of Medical Virology 2005;76(2):279-84 | フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを検討する必要がある。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----------|-------|------------|------------|---------|------|-----|------|----|----|--------|---------|--|--|
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Transfusion.2005;45(6):994-1002 | 米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J of Medical Virology 2005;76:498-502 | 1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Gastroenterol Hepatol 2005;20(7):1087-93 | 日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 第41回日本肝臓学会総会 | 献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。 |
| | | | | | | | | | | | HTLV | J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7 | ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV- IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。 |
| 2005/9/22 | 50466 | 武田薬品工業株式会社 | 日本脳炎ワクチン | マウス脳 | マウス脳 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 2005/9/22 | 50467 | 日本赤十字社 | 乾燥日本脳炎ワクチン | 合成血 | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | HIV | Eurosurveillance Weekly 2005;10(8) | 2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | HIV | IASR(共同通信2004年12月3日) | 2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。 |
| | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | FDA Available form 2005Jul 27 | 2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドン案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | 細菌感染 | The Lancet 2005;365(9470):1596 | S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。 |
| | | | | | | | | | | | エルシニア感染 | ICUとCCU2005;9(2):45-9 | 輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。 |
| | | | | | | | | | | | マラリア | ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日) | パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。 |
| | | | | | | | | | | | マラリア | Vox Sanguinis 2005;88(3):200-1 | 2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。 |
| | | | | | | | | | | | トリパノソーマ症 | ProMed2050402-0020(O Folha online) | ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。 |
| | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91 | 2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | バルボウイルス | Transfusion.2005;45(6):1011-9 | ウイルスバリデーション試験でのヒトバルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neurology 2005 ;64(5):905-7 | 孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6 | クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26 | レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。 |
| | | | | | | | | | | | BSE | ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005) | フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日) | 厚生労働省は2005年2月4日、日本で初の変異型ヤコブ病(vCJD)を確定したと公表した。この日本人男性患者は2004年12月に既に死亡しており、1989年の約1ヵ月程度の英国滞り期間中に感染した可能性があると見ている。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | BSE | ABC newsletter 2005年2月11日 | イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイピーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性があるとして発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Yahoo health 2005年3月3日 | 2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005 :365(9461):781-3 | BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Genetal Virology 2005;86:1571-9 | TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒトの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Transfusion.2005;45(4) :504-13 | 非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosuveillance;10(16) 2005年4月21日 | 2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed20050612- 0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日) | ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8 | 遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオン ¹ の垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005;365(9470):1596 | 2005年7月、アイルランド ² 輸血サービス(IBTS)とアイルランド ² 当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ABC newsletter 2005年7月8日 | カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。 |
| | | | | | | | | | | | リンパ性脈絡髄膜炎 | AABB Weekly Report 2005年5月27日 | 2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日) | 2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|---------|--|---|
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Transfusion.2005;45:1084-8 | SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。 |
| | | | | | | | | | | | マールブルグ病 | ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation) | 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 |
| | | | | | | | | | | | マールブルグ病 | CDC 2005年4月20日 | 2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。 |
| | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion.2005;45(6):1037-8 | ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な世帯血禁じが必要である |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of General Virology 2005; 86: 595-9 | 本邦の献血者(2002年10月)において、遺伝子がHのHBV事例(外国滞在歴なし)が初めて、発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日 | 2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6 | ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|---------|--|---|
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | J of Medical Virology 2005;77:39-46 | 日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Transfusion.2005;45:8 07-13 | 豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。 |
| | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第53回日本輸血学会 総会 | 2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J of Medical Virology 2005;76(2):279-84 | フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Transfusion.2005;45(6) :994-1002 | 米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。 |
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J of Medical Virology 2005;76:498-502 | 1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----------|-------|----------|-----------------------------------|-----------|------|--------------|------|----|----|--------|-----------|---|--|
| | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93 | 日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。 |
| | | | | | | | | | | | HTLV | J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7 | ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV) - IとHTLV-Ⅱの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。Ⅱ型の性感染率はⅠ型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。 |
| | | | | | | | | | | | HTLV | Transfusion.2005;45:1 151-9 | amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。 |
| | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 第41回日本肝臓学会 総会 | 献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。 |
| 2005/9/22 | 50468 | 株式会社ベネシス | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン 人免疫グロブリン | 人免疫グロブリンG | 人血液 | ①日本、②③ 米国 | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | HIV | The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005 | 2005年2月、ニューヨーク市保健衛生局は、抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が2004年12月、高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行したと発表。本症例により注目すべき点は、薬剤耐性のエイズウイルス感染症が確認されたこと、また、疾患の進行が急速であることがあげられる。 |
| | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91 | 2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | ニパウイルス | Health and Science Bulletin 2004;2(2) | 2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が知られた。 |
| | | | | | | | | | | | ハンタウイルス | Microbiology and Immunology 2004;48(11):843 | 2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。北海道の自衛隊207人のうち1名がIFA,ELISA,ウエスタンブロットの分析によりハンタウイルス感染が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | HTLV | The New York Times, February 26, 2005 | アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回 Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | PNAS,102(9),3501/2005 | CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質 (rPrPsc) もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質 (sPrPsc) も両方の異常プリオン蛋白質 (PrPsc) を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。 |
| | | | | | | | | | | | マールブルグ病 | WHO/CSR 2005年3月23日 | アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | International J of Epidemiology 2005;34:46-52 | フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。 |

| 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用措置 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|--------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | マラリア | Vox Sanguinis 2005 88(3):200-1 | 2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。 |
| | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CBER Guidance for Industry April 2005 | 本ガイドランス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイドランスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。 |
| | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Transfusion.2005:45 (4): 500-3 | 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Cell 2005;121(2):195-206 | 異常プリオン蛋白質をin vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。 |
| | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005 | 2005年4月、オランダ保健当局によると、オランダで最初のvCJD患者が確定されたと発表。患者はオランダ以外の国の渡航歴はなく、オランダが牛肉の輸入を規制する1997年以前に感染した様子。 |
| | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年5月 | 2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | トリパノソーマ症 | IASR 2005;26(5):124-5 | インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。 |